

播州織工業協同組合

「活路開拓事業」で専門家派遣を利用し、機能性布地の新製品開発に成功

company profile

設立年：1947年

事業内容：先染め織物の整理加工・製造・販売

ザクツと言うと **3** ポイント

1. 産地始まって以来の苦境といわれる中、生き残りをかけて奮闘中
2. 「活路開拓事業」による支援により新たな加工方法を開発
3. 播州織のブランド化を目指し、製品化にも挑戦中

織布整理加工の均一化、合理化のために設立

播州織工業協同組合は、織布業者の出資により、播州織の主に加工を目的として設立された。工場で織りあがった時点では、布地はまだ商品としての品質等が整っていない。組合では、これを集めて加工を施し、用途に応じた特性、機能、風合を付加し、商品価値を高める整理加工を行っている。

兵庫県中小企業団体中央会（中央会）の支援をいかに利用されているのか、常務理事の大久保氏、工場長の松田氏に話を伺った。



組合概観

産地始まって以来の苦境下、生き残りをかけて



大久保氏（右）と 松田氏

北播磨地域において長い歴史をもつ播州織は、先染め綿織物国内生産トップシェアを誇り、昭和時代には海外へ向けての輸出も盛んだった。ところが、プラザ合意による為替政策のために輸出が激減し、安い海外製品の輸入が増加。産地始まって以来の苦境と言われている中、生き残りをかけ新製品の開発に取り組んでいる。

機能性生地の開発に当たっては、加工薬剤や機械などの高度な知識が必要となる。中央会に相談し、「活路開拓事業」の支援を受けて新しい生産加工方法の確立に成功した。「ミラクルコットン®」は、汗染み防止加工が秀逸だ。肌に触れる面は通常の生地で汗を吸うが、表面は特殊な加工が施されており汗がほとんど見えない。まもなくシャツとして売り出される予定だ。また、これまでに開発した「エココンフォート®」は、綿織物でありながら透湿性、通気性、耐水性、防風性、撥水性を併せ持つ素材で、外部からの水性物質をガードしつつ内部からの汗や水蒸気を外部へ通気する。環境にやさしい水系樹脂を利用しているのも特徴だ。

風合いに特徴のある生地も開発している。「クラッシュ加工」は立体感ある独特の風合いの加工方法で、数々の賞を受けた。約半世紀ぶりに復活させた「播州やたら」は、緯糸に残糸を利用するため、同じパターンが繰り返される一般の播州織とは違い、模様の再現性がないのが特徴。これらの生地を利用し、帽子や財布、鞆などへの製品化も行っている。



「播州やたら」

組合として産地へ貢献するために

播州織の生産は、染色業者、織布業者、整理加工業者などの分業で行われ、問屋、メーカーへと送られる。テキスタイルを仕上げる最終段階を総括する組合は、播州織の地位向上、ブランド化を推進する役目を担わなければならないと考えている。まずは兵庫県下のメーカーなどとコラボし、地域ブランドを立ち上げ、商品を世に出したい。中央会のネットワークやアドバイスを活用し、販路拡大を図りたい。



播州織生地で開発したハンチングを手に 中央会 尾崎と

中央会の紹介により、大手雑貨店との個別の商談にもチャレンジした。また、中央会と（独法）中小企業基盤整備機構が主催する「ものづくりキャラバン 展示会 in 東リ-2」にも参加。多方面から播州織の可能性拡大を模索している。

産地へ、地域へ、そして兵庫県へ貢献するために、来季に向けてブランド化の構想が膨らむ。

担当者からひとこと

播州織の特徴は、染め上った糸で柄や模様を現出させる「先染織物」という製法です。この製法により、色彩に秀でた、ファッション性やデザイン性に富んだ織物を作り出すことができます。当組合は、この織物を独自の加工技術により風合いや機能を付加することで、さらに価値を付けています。国内外の加工業者の追随を許さないため、加工技術の開発、改良に努められています。中央会では、登録する専門家や組合間のネットワークを活用しつつ、新たな市場の創造に向けた新しい加工技術の開発や、設備のさらなる合理化・効率化のサポートを今後とも続けていきます。



担当者：尾崎 元英